

第7回産官学連携推進会議
平成20年6月14日

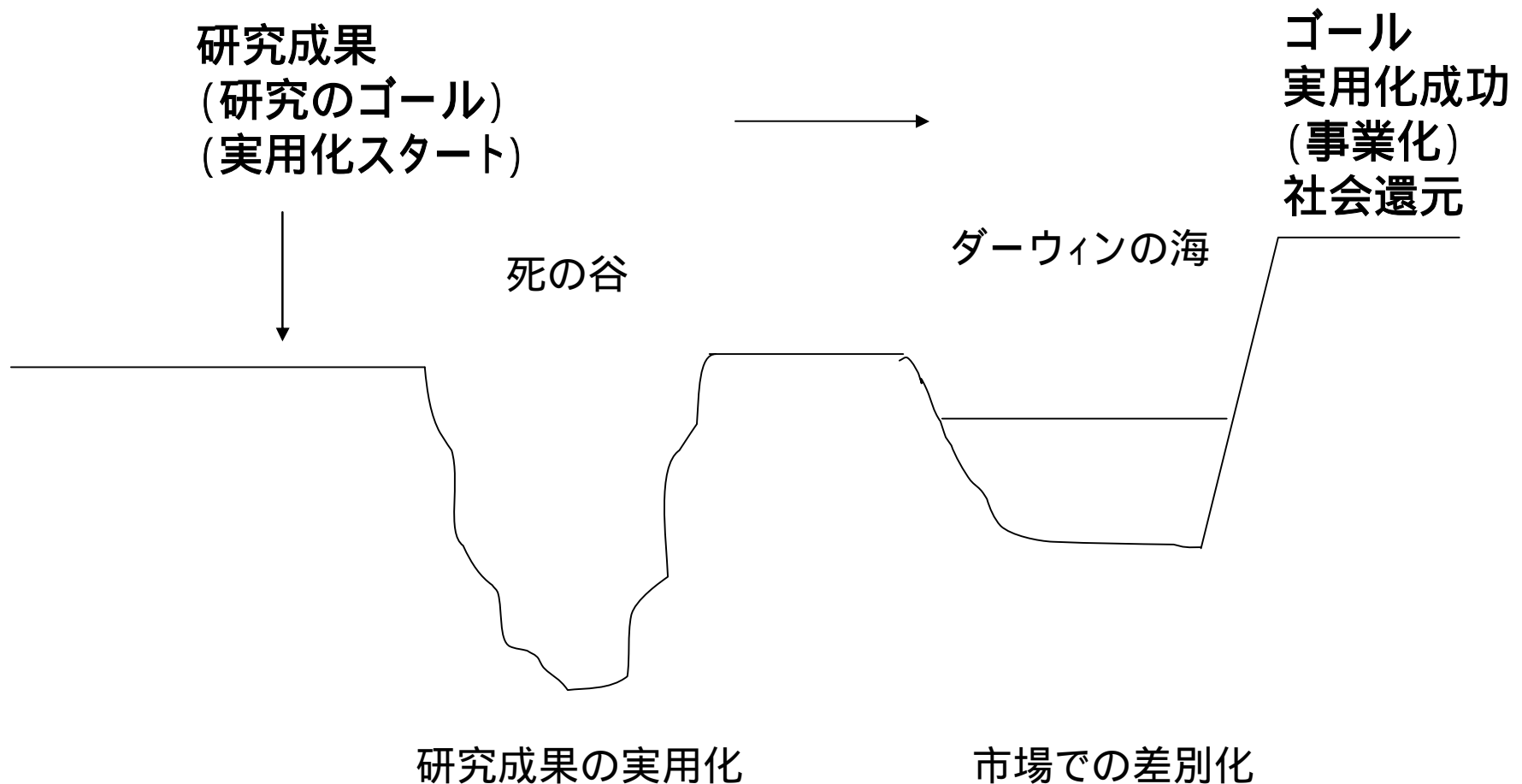
研究成果の実用化に向けて

大学 / 独法におけるベンチャー創出 / 事業化ステージについて

株式会社メガオプト
代表取締役 和田智之

(理化学研究所 和田固体光学デバイス研究ユニットリーダー兼任)

研究成果の実用化と課題



死の谷の課題

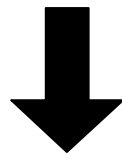
- ・多くのベンチャーでは物が作れない、実用化ができない。
- ・十分な資金の確保が困難
- ・製品化技術、量産化技術の欠如。新しい製品ほど困難。人の確保が難しい。(研究と実用化の乖離)

ダーウィンの海の課題

- ・既存技術、競合技術との差別化。
- ・どんなに優れた技術でもコスト意識は必要。
- ・技術スタッフに加え、ビジネス系のスタッフが必要になる。
- ・製品が優れていても必ずしも売れるとは限らない。

個別企業と研究分野での取り組み

- ・ ハンズオンによるサポート体制の強化
- ・ 成功事例の増加と経験を持った人材の輩出が必要



研究現場へのフィードバック

- ・ 国の取り組み（国力の強化、社会還元）
- ・ 研究分野での取り組み

研究段階へのフィードバック(提案)

- 研究現場の意識と実用化の本質との隔たりが大きい。
- (提案) しっかりとしたリーダーが必要
- 特に海外では、分野ごとの実用化研究の拠点がある。
- (提案) 企業も参画したワンループの研究機関が望まれる

例) 実用光源研究とレーザー加工